

10. 九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	コンビニ（エリ ア担当・店長）	来客数の動き	・4月中旬から気温が高いせいもあり、来客数が増えている。前年と比較して、気候にもよるが少しずつ来客数が伸びる。梅雨が長雨だと少し分らないが、客単価も上がっている。
(九州)	やや良く なっている	商店街（代表 者）	お客様の様子	・来店数も増えて、客は買おうという意思にもとづいて物色している。購入につながる様子が十分うかがえる。実際に売上点数も増えている。良い方向に少しずつ上向いている。
		商店街（代表 者）	来客数の動き	・最近アーケードの中を往來する客の数が増えたような印象がある。
		商店街（代表 者）	来客数の動き	・5月に入り一気に気温の上昇とともに夏物衣料の動きが良くなった。母の日セールも単価はさほどでもないが売上高の増加を後押しした。
		百貨店（営業担 当）	単価の動き	・買上単価が3か月連続で前年を上回っている。また、自社クレジットのシェア及び対前年伸長率が3か月連続で前年を上回っており購買意欲は戻りつつある。しかし、現金を手元に残す堅実な姿勢は継続している。
		百貨店（営業統 括）	単価の動き	・継続して宝飾・美術・呉服等の高額商品の動きが活発化している。
		百貨店（売場担 当）	競争相手の様子	・今月は前年実績を超える見通しだ。2月に比べるとやや良い。突出しているのは絵画と宝石で、3、4月は絵画が前年比430%、宝石が同132%、今月は絵画が前年比175%、宝石が同195%であった。衣料品では、紳士服がやや良いが、婦人服は若干良くない。単価をみると非食品は1品単価が前年比109%、客単価が同110%と伸びている。
		スーパー（店 長）	販売量の動き	・母の日の進物件数は前年比110%と伸長した。生花ギフトの単価も前年より上昇したが、衣料品中心に需要は落ち込み、前半は前年を割り込む。月後半は、前年より気温が高い日が続く衣料品の売上が2けたの伸びとなり、月累計で前年比100.1%まで上がる。
		スーパー（店 長）	競争相手の様子	・競合店ができて1年がたち、前年比は先月からみて4%程度改善している。厳しいのは青果相場で前年比92%となっている。精肉、鮮魚は競合店の影響で前年比98%、先月からみて4%程改善している。競合店がディスカウunterに改装してから1年になるので、6月から前年比100%を超える数字が期待できる。
		スーパー（総務 担当）	それ以外	・月の前半は、気温の影響もあり春夏物の動きがあまり良くなかった。中旬以降は気温の上昇に伴い衣料品、住居用品、食料品とも前年を上回っている。
		コンビニ（店 長）	販売量の動き	・販売量、客数共に多い。
		衣料品専門店 （チーフ）	お客様の様子	・今年のクールビズ期間は、前年よりも1か月前倒しで行われているため、客の購買意欲の高さが見受けられ、単価も上昇している。
		衣料品専門店 （取締役）	お客様の様子	・端境期の2月と比べると5月は物が動いている。さらに、マスコミ報道による気分的なものや、一部の株等でもうかった方、もしくはボーナスが増えると約束されている方等の買物もある。
		その他専門店 〔コーヒー豆〕 （経営者）	販売量の動き	・前月に比べると来店客数は若干の減少がみられるが、1人当たりの購入量が増えており、結果、売上増加につながっている。
その他小売の動 向を把握できる 者〔土産卸売〕 （従業員）	来客数の動き	・ゴールデンウィークを挟み、県外からの観光客も増えてきた。そのため販売数量が増え、販売単価も上昇してきた。		
その他小売 〔ショッピング センター〕（広 報担当）	来客数の動き	・5月は春物クリアランス、初夏物の拡大時期であったにもかかわらず、気温が上がらず衣料品を中心に苦戦した。一方、食品を中心に客数は増加傾向にある。アベノミクスの効果として将来への期待感もある。		
都市型ホテル （販売担当）	来客数の動き	・宿泊者数が少しずつ伸びている。中国や韓国の方々が増えている。		
都市型ホテル （副支配人）	販売量の動き	・5月は団体、個人、インターネット予約共に伸びている。		

旅行代理店 (企画)	お客様の様子	・国内旅行は、5月は受注人数で前年をわずかに割ったが、6～8月は110%以上の伸びをみせている。一方、海外旅行は、人数で対前年を10%以上割っている。ただし、8月の取扱人数は前年割れしているが、取扱額は前年を上回っている。夏のボーナスを期待して、少し高価な旅行を申し込む傾向がみられる。また、ファミリー層の受注も110%以上の伸びを示しており、夏の旅行受注に向けて期待が持てる。	
タクシー運転手	来客数の動き	・昼間の動きは以前よりも良くなってきているが、夜はさっぱりである。プラス、マイナスで少し良い。	
通信会社 (業務担当)	販売量の動き	・5月は中旬以降、新商品により市場が活性化し、販売が好調で、人気商品の品薄感もあるものの、平日、週末共に来店客数と売上台数ともに増えている。	
その他サービスの動向を把握できる者 [介護サービス] (管理担当)	来客数の動き	・季節要因により客の入院が減少し、全体の顧客増につながっている。	
設計事務所 (所長)	来客数の動き	・円安、株高の影響なのか、様々な計画や企画等の話を持ち込んでくる客が多くなっている。	
設計事務所 (代表)	来客数の動き	・問い合わせが増えてきている。	
住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・新築住宅受注・建売住宅売買棟数が、3か月前は前年比1～2割増だったのが、今月は前年比3割増の見込みである。	
住宅販売会社 (代表)	来客数の動き	・住宅に関してはいろいろな要因があるが、やや上向きである。来客数等の動きもあるが、大工や板金、基礎などの関連業者の仕事が詰まっており、かなり忙しく受注を取っている印象を受けている。	
変わらない	商店街 (代表者)	来客数の動き	・来客の様子をみると雰囲気的には景気が上向きになっているような気がするが、購買には連動していない。特に今月は好天のゴールデンウィークで行楽地へと客の流出が顕著であった。
商店街 (代表者)	来客数の動き	・商店街の来街客数はそう増えていないし、単価も上がっていない。地方の個人消費の実態はまだ相当厳しいというのが実感である。	
一般小売店 [青果] (店長)	それ以外	・宮崎の中央市場の相場は、夏野菜等で県外物も増えたが、販売量が増えて高くなったのではなく県外物の輸送コストで高くなっており、物の動きは変わらない。マンゴーのギフト関係が前年の相場よりも2～3割安くなっており厳しい。	
一般小売店 [生花] (経営者)	販売量の動き	・当店はギフト専門の花屋だが、5月は母の日という一大イベントがあったのにもかかわらず、他業種が母の日ギフトに参入していることもあり、今一つ売上が伸びておらず、年々母の日の売上が落ちている。	
一般小売店 [茶] (販売・事務)	来客数の動き	・円安の悪影響が少しずつ出てきている。新茶の売上も仕入れの値上がりで期待薄となり例年と変わらない。5月に入り新茶で売れる時期にもかかわらず、気温の上昇とともに来客数も販売量も減少している。	
百貨店 (総務担当)	販売量の動き	・ゴールデンウィークが好天に恵まれて、人々が郊外の観光地へ向いたことで、都心部に立地する当施設への来店者数が大幅に前年実績を割っている。母の日以降もアパレル、飲食、サービスなどテナントの売上が大変厳しい状況である。	
百貨店 (営業担当)	それ以外	・店頭の入店客数の前年割れが続いているのに加え、店頭の売上自体が非常に苦戦している状況である。一部、外商の客には少し好転する動きがみられるが、店頭での売上が下回っているという状況である。	
百貨店 (店舗事業計画部)	販売量の動き	・季節性の高い婦人ファッションや雑貨商品は、本当に必要なものを必要な時期になって買う顧客が大半である。シーズンを先取りする顧客が少なく、好天が続く気温が上がって安定してきてようやく動き出しており、流行の取り入れ方も慎重にみえる。	
百貨店 (営業政策担当)	販売量の動き	・直近の九州主要百貨店の来客及び売上状況は、リモデルなどの特殊事件を除くと、概ね前年実績割れの傾向が多い。	
百貨店 (業務担当)	お客様の様子	・今年の春については、気温が安定せず衣料品を中心に動きが悪かった。5月に入り、気候も安定し動きも堅調になってきたものの、機を逃した売上を取り戻すまでには至っていない。提案商品への反応は鈍く、必要性が生じてから買うという客の動きは変わらない。	

スーパー（経営者）	販売量の動き	・アベノミクス等で景気が良いように言われているが、実際には何も変化がない。ガソリン代をはじめ日用品の値上げで、景気は後退気味のようなイメージがある。
スーパー（店長）	販売量の動き	・数か月前と比較しても相変わらず低価格志向が強い。多少の工夫では単価は上がらず、単価を上げれば買上に敏感に影響する。
スーパー（店長）	お客様の様子	・買上点数が増えているにもかかわらず、客の買上単価が下がっているのが現状である。
スーパー（店長）	単価の動き	・消費者の低価格志向は依然として根強いものがあり、競合他社もかなりギリギリのところまで価格を下げており厳しい状況が続いている。客数自体は若干回復傾向にあるが、その分単価の下落は続いている。
スーパー（経理担当）	販売量の動き	・福岡地区は比較的落ち込みは少ないが、北九州地区は前年に対する落ち込みが大きい。全般的には野菜が安値で販売額が減少している。
スーパー（業務担当）	販売量の動き	・梅雨入りして数日が経過したが、例年この時期に急速にトレンドが上向いてくる半袖衣料や炭酸飲料等の季節商材の動向が弱い。平年値と比較しても数%の低下しており、売上の底上げにつながらない状況が続いている。
コンビニ（経営者）	お客様の様子	・いまだに目的買いばかりの商品だけで、プラスアルファのついで買いが客の購買動向からみられない。
コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・ゴールデンウィーク期間中気温が上昇せず、夏物商品がほとんど売れない厳しい状況が続いている。アベノミクスの影響は地方ではほとんどなく、客の賃金が上がっているようには全くみえない。
コンビニ（販売促進担当）	販売量の動き	・先月より微量ながら悪く、3月と同様で販売量はほぼ横ばいである。
衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・ゴールデンウィークから5月末にかけて、来店はあるが依然財布のひもが固く、売上につながらない。
衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・下げ止まりというか、来店客数も売上高もそう変化がないようだ。
衣料品専門店（店員）	お客様の様子	・何度か下見してから慎重に購入を決める客が目立った。買い方をみていると景気が良くなっている気はしない。売上も前年並みである。
家電量販店（店員）	販売量の動き	・家電では、現在核となる商品がない状態で、景気に関して言うと、かなり前から悪い状態での横ばいが続いているというのが実感である。
家電量販店（広報・IR担当）	販売量の動き	・AV関連商品に関して、販売量及び単価は上がりつつあり、一時の低迷からは脱しつつあるが、全体的な景気が上向きになっているという感覚はない。
乗用車販売店（代表）	お客様の様子	・景気が良くなっている様な話題が出ない。
乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・今月も新車販売台数が順調に伸びている。特に燃費の良いハイブリットなどのエコカーが人気である。
住関連専門店（経営者）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク後半、来客数は回復傾向にあったが、中旬以降はまた減少してきた。5月後半の株価の異常な動きが景気の不安定さを表している。
住関連専門店（店長）	販売量の動き	・特売日や、ポイントカードのポイント3倍などの催しがある日は売上が伸びてきている。購買意欲は出てきているが、できる限り安くお得な日という意識がまだまだ強い。
その他専門店 〔ガソリンスタンド〕（統括）	お客様の様子	・燃料油の販売量は前年と比較して、さほど変わりはない。連休中に当地を訪問して当店を利用いただいた客の会話及び様子を聞くと、前年よりも旅行に費用をかけているようだ。
その他専門店 〔書籍〕（地区支配人）	販売量の動き	・3か月前と比べても販売量の増加は見られず回復の兆しがみられない。悪くなっている傾向に変化がみられないという意味で「変わらない」と判断する。
その他小売の動向を把握できる者 〔ショッピングセンター〕（支配人）	来客数の動き	・ランチタイムは変わらないが、夜のディナータイムの来客が減少した。
高級レストラン（専務）	来客数の動き	・今年はゴールデンウィークが連続していなかったため国内旅行が多かったのか、円安の影響で外国客の増加の影響か、客が増えた。
高級レストラン（支配人）	来客数の動き	・来客数が横ばい気味である。

居酒屋（経営者）	来客数の動き	・店に出入りする業者に関しても景気が良くなってきたという話は聞かない。	
旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・為替の変動が激しく先の見通しがつかみづらく、価格決定に苦労している。	
タクシー運転手	お客様の様子	・昼間のタクシー利用の動きが悪く、夜も週末に少し動くだけであまり変わらない。	
タクシー運転手	来客数の動き	・会社関係の予約状況は大変良いが、一般の日常的な売上が今月は大幅に落ち込み、大変売上が悪かった。	
通信会社（総務局）	販売量の動き	・地上波完全地上デジタル化以降、新規獲得は低迷しており、さらにインターネット獲得競争激化により解約増加契約数は横ばいで推移している。	
ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・県外の観光客が定期的に減少している状態で、それに伴ってゴルフ場の入場者数も減っている。また地元客を取り入れるためにプレー代の値引きするなど、なかなか厳しい状況が続いている。	
ゴルフ場（支配人）	来客数の動き	・5月は天候に恵まれ、入場者数は過去5か年の平均値を確保できる見込みである。しかし、安くなったプレー料金とゴルフ場数過多により、いつでもゴルフができるという余裕から、わずかな雨でも予約は敏感に反応し、当日キャンセルが常態化しており、安定した客数を確保することが難しくなった。	
美容室（経営者）	販売量の動き	・3か月前はこれから景気が良くなる傾向があったが、5月は今までの景気改善の傾向が止まってしまっている。アベノミクスの影響は一部に出ているが、末端の消費者には少しも浸透していない。	
美容室（店長）	お客様の様子	・テレビや新聞で景気が良くなりボーナスも上乘せ等という話を聞くが、身近ではそういう話は出てこない。	
音楽教室（管理担当）	来客数の動き	・今はあまり人数の変更はない。	
設計事務所（所長）	来客数の動き	・特にない。	
住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・アベノミクスの効果で株価等の証券関係は非常に実体景気が良いようだが、宅建業の住宅販売は、まだ一般まで浸透していない。例えば、給料やボーナスが上がるとい話がないので、実際に客がマンションや住宅の購入に踏み切れていないといえる。	
やや悪くなっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・アベノミクスという言葉は大企業に対する言葉であって、我々零細企業には全く関係がない。給与は上がるどころか物の値段のほうが上がり、6月出荷分から食料品でも小麦粉、油、マヨネーズ、シーチキン等の値上げが発表されている。消費者も大変な年になりそうだ。
	百貨店（売場主任）	お客様の様子	・高額商品を購入する一部の客の動きは良くなっているが、一般客の消費に対する動きが良くない。特に紳士服では半袖ワイシャツや紳士肌着が良くなる時期だが、実際に購入する客が少ない。
	百貨店（企画）	お客様の様子	・人気の物産催事開催が入店につながっていない。不安定な経済情勢は接客時の話題にも現れ、気温の上昇に伴い夏物衣料品への期待が高まるなか、売上は苦戦気味である。
	スーパー（総務担当）	お客様の様子	・これまでの低価格商品への動きが緩やかになってきている。他方、中・高類品への動きは活発でもなく、結果、買上点数が減少し、業績が若干悪化している。また、低価格商品だけの集客戦略では客数維持が担保できないため、多様な戦略が必要となっている。
	衣料品専門店（総務担当）	競争相手の様子	・上場会社の月次の売上高傾向、及び当社が出店しているビルにおける5月の月次の途中経過等をみると、2月に比べて落ち込み幅も大きくなっており、また当社においても例外ではなく、2月よりも前年比でみた場合悪くなっている。
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・エコカーの受注は伸びているが、利益が取れる車が伸びず、全体的に受注が前年に対して少なくなっている。
	その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	来客数の動き	・競合他社の相次ぐリニューアルによる影響がある。

		高級レストラン (経営者)	来客数の動き	・先月は良かったが、5月はゴールデンウィーク前後から少し来客数が少なくなり、その後少しは立て直したがやはり厳しい月になった。現政権になって少しずつは景気が良くなっているような感じはするが、やはりまだ今一步である。
		美容室 (経営者)	来客数の動き	・3月は卒業式等イベントがある期間は良くなるが、今から梅雨に入ると、おしゃれをしてもあまり関係ない時期になるので落ち込んでいく。
	悪くなっている	商店街 (代表者)	来客数の動き	・メディアは景気回復を伝えているが、その影響は大企業及び一部の投資家だけで、末端層では更に景気は悪くなっている。ゴールデンウィークの消費に伴い更に追い打ちをかけるがごとく、消費者は購買を控えている。周りの飲食業、小売店もあまり良い声は聞かない。売上が前年度比でマイナス40%になっている。
		一般小売店 [鮮魚] (店員)	来客数の動き	・急激な気温の上昇のせいなのか何か分からないが、とにかく来客数が少ない。原因が分からない。
企業動向関連 (九州)	良くなっている	経営コンサルタント (代表取締役)	それ以外	・熊本に関して言うと、今月中旬に第56回日本糖尿病学会というかなり大きなイベントが開催されたこともあって、街なかでは非常ににぎわった状況であったと聞いている。また、住宅展示場を回ったが、駐車場一杯で入れないほど人が来ており、今までになかった動きがある。
	やや良くなっている	農林水産業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・5月は4月ほどの勢いはないが、前年に比べてかなり伸びている。特にスーパー、居酒屋関係は順調である。少し期待はずれは、大手加工メーカー向けの素材肉類があまり芳しくないことだ。もう少し時間が必要なのかもしれないが、供給量が多いことが一番の原因である。
		家具製造業 (従業員)	受注量や販売量の動き	・3月以降、季節変動はあったものの総体的に前年同月比では、受注額、受注件数共に伸びている。1件当たりの受注額の伸びは数%であるが、受注件数が10%以上伸びた。高級家具の引き合いも若干増えており低価格商品一辺倒から抜けつつある。
		精密機械器具製造業 (従業員)	受注量や販売量の動き	・受注量が増えてきて、生産数が上がってきている。
		通信業 (経理担当)	それ以外	・このところ地場の企業決算公告が新聞をにぎわしている。株価の乱高下はともかくとして企業そのものの好決算は揺るがないところだ。
		新聞社 (広告担当者)	受注量や販売量の動き	・売上のメインである「通信販売」「旅行」が90%台と弱含みで推移しているが、太陽光発電などの「住宅設備」「不動産」が前年を超える出稿量で全体としては100%を上回る見込みである。
		経営コンサルタント (社員)	取引先の様子	・大型倉庫を求めている企業が多くなってきた。
		経営コンサルタント (代表取締役)	受注量や販売量の動き	・顧客からの問い合わせや申込みが増えてきており、企業の投資意欲が上向きつつある。
	変わらない	農林水産業 (従業員)	受注量や販売量の動き	・畜産の食肉関係の販売は、大体前年並みで推移している。
		食料品製造業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・例年より受注量が多く推移している。
		繊維工業 (営業担当)	それ以外	・受注は増えつつあるが、デリバリーや材料の仕入れ価格の上昇の影響が大きい。電気代の値上げで相当経費をもっていかれそうだ。景気が良くなっているとは言えない。
		窯業・土石製品製造業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・受注は、現在単価が大変厳しい状態である。円安の影響で中国の予約品等はいくらか減っているようであるが、我々の商品価格には何の影響もない状態である。
		一般機械器具製造業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・特に受注量が多くなっていない、3か月前とほぼ同じ足並みである。
		建設業 (社員)	受注量や販売量の動き	・現在は手持ち工事もあり、年度初めとしては良いが、後が全くみえてこない。新年度の発注予定はあるが、発注時期が不明である。
		金融業 (従業員)	取引先の様子	・円安などからコスト高による収益悪化を懸念する取引先があり、生産水準も概ね横ばいである。一方、百貨店・スーパーでは売上が増加している。また、災害復旧関連工事を含め公共事業が活発化している。雇用面でも中途採用に踏み切る動きがみられる。

	金融業（営業担当）	取引先の様子	・円安に伴う大手製造メーカーの好決算ばかりが目立っているが、中小企業は、商売の大半を輸入品目に頼ったものとなっているため、円安による仕入品目の値上げ負担になってきており、利幅は低迷したままとなっている。		
	金融業（得意先担当）	取引先の様子	・アベノミクスで実行された大胆な金融緩和や緊急経済対策等により、景気動向指数や日経平均株価の推移等から景気は回復軌道に入っているという声を取引先企業の代表者から数多く聞く。また、株高を受けて消費者の期待は急速に高まり、個人消費は改善していると一部で大きく言われているが、実体は、企業の業績改善に至っていないとの声を多く聞く。以上より、景況感はまだまだ厳しいと判断している。		
	経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・いろいろと営業努力をしているが、新しいクライアントが増えない。これは同業者に聞いても同じようだ。		
	その他サービス業〔設計事務所〕（代表取締役）	取引先の様子	・福岡県内の市町村の当初予算をみると、土木工事や公共施設の改修工事などの業務に多く計上されているが、発注は地元の同じ市町村にある建設工事の業者が優先されるため、他市町村にある事業所が受注することが難しい状況にあり、入札の指名がなかなか得られない状況にある。		
	やや悪くなっている	一般機械器具製造業（経営者） 輸送業（総務担当）	受注量や販売量の動き 取引先の様子	・受注量がなかなか上がらない。依然として悪い状態が続いている。 ・預かっている荷物の荷動きが非常に悪い。したがってあまり良くない。	
	悪くなっている	○	○	○	
雇用関連	良くなっている	-	-	-	
(九州)	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人依頼数が前年比150%と企業の求人意欲が活発である。	
		人材派遣会社（社員）	それ以外	・パーティコンパニオンの派遣を行っているが、4月以降コンパニオンの発注が前年比20%増となっている。震災等で控えていた宴会の実施や、コンパニオンを入れる予算が確保できてきたようである。	
		人材派遣会社（社員）	雇用形態の様子	・派遣依頼をする企業も増えているが、直接雇用を前提に紹介予定派遣や人材紹介を希望する企業も出てきている。企業の業績が良くなり、長期的に人材を入れたいという企業が増えている。	
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・株価が上昇している。	
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・中規模開発の発表が相次いでおり、サービス業で動きが出始めている。都市圏での投資が地方都市へも波及してきたようだ。	
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	採用者数の動き	・大卒の就職活動が本番を迎えており、内定者に聞くと状況が良いようだ。内容もさまざまな業種、業界にわたり景気の回復感がうかがえる。	
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人は、前年同月比で7か月連続増加、新規求職は、4か月連続減少しており雇用状況は改善している。	
		職業安定所（職員）	採用者数の動き	・ハローワーク紹介の就職件数は前年同月、前月比で13%増となっている。	
		変わらない	人材派遣会社（営業）	求人数の動き	・求人数は、3か月前と比べて大きな変化はない。
			求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き	・当社調べの求人取扱に変化がない。
		職業安定所（職業相談）	求人数の動き	・求人数は前年同月比で増加傾向にあるが、増加分の約7割をパート求人が占めているなど、正社員求人の本格的回復には至っていない。	
		民間職業紹介機関（社員）	求人数の動き	・求人の動きに変動はない。特に大手企業は動きがありそうになく、地域の中小企業も動きはみられない。	
		民間職業紹介機関（支店長）	求人数の動き	・派遣労働者の大きな需要先である金融機関や情報・通信業界からの注文が伸びず、注文数は前年同期を割っている状態が続いている。	
		学校〔大学〕（就職支援業務）	求人数の動き	・求人依頼で来訪する企業のうち、いくつかは前年度より求人増の意向を示しているが、景気の動向に結び付くような顕著な動きにはなっていない。	
	やや悪くなっている	-	-	-	

悪く なっている	-	-	-
-------------	---	---	---